

最終報告書

ハラ アル カリーリ

仙台観光国際協会（SENTIA）で交流委員として二年間、色々な活動に参加させていただきました。そのおかげで、大事な経験ができ、素敵の方々と出会うこともできました。この二年間、色々な活動を通して仙台に暮らしている外国の方に少しでも役に立つことができたなら幸せです。また、日本の方に外国に関しての不安が少しでも解けたなら幸いです。

勉強になったことがたくさんありました。特に生活オリエンテーションや緊急の時にどうすればいいのかなど、大事なことを学びました。今度、友達や知り合いにその情報を広げて、皆より良い生活ができるんじゃないかなと思います。

また、交流員の皆さんの国のプレゼンを聞き、自分の国のものをさせていただきました。そのおかげで文化や歴史を学ぶことで理解や親しみを感じました。

SENTIA のさまざまな講座では、日本の方に外国人の不安や文化の違いにおける課題を明確にすること、主にコミュニティのニーズや生活上の課題、日本語でどのように対応するか、とても重要だと思います。

一方で、もう少し踏み込んだ視点も大切ではないかと感じています。外国人に関する課題は、言語や生活上の問題だけではなく、日本社会の中で外国人の存在をどのように捉えるか、という意識や気持ちにも関わっていると思います。

日本は高齢化や人口減少の中で外国人の存在が必要とされることがよく言われますが、それだけではなく、外国人と地域の人々が共に生活することで、文化や社会全体がより豊かになる可能性もあるのではないかと思います。

このようなテーマがデリケートであることは理解していますが、共生の本当の意味では、制度や言葉だけではなく、お互いの違いを受け入れようとする姿勢や、より深い意味での openness から生まれるものではないかと思っています。自分の印象では、日本社会にはまだまだ課題があるのではないかと思います。

これからも、交流委員としてではないんですけど、機会があればまた活動に参加させていただき、日本と海外とのつながりを少しでも深めることができれば嬉しいです。



最終報告書

アン・ヒョンソク

2025 年 10 月から 2026 年 3 月にかけて、私は SENTIA の活動に参加しました。今年度後期は、定例ミーティング、韓国語ラジオ収録、そして宮城野区中央市民センターでの「やさしい日本語」研修会に携わりました。研究室での卒業研究や奨学金学位プログラムの準備と重なり、多くの活動に参加できなかったことは心残りですが、その分、交流委員の仲間一人ひとりとより深く関わることができ、信頼関係を築けたと感じています。

特に印象に残っているのは、2026 年 2 月 5 日に行われた宮城野区中央市民センターでの「やさしい日本語」研修会です。当日は仙台色んなところの市民センターの職員の方々が参加し、窓口対応を想定した場面で、外国人にどのように説明すればよいかを一緒に考えました。私自身が外国人の立場となり、職員の方から質問を受けながら状況劇を行ったことで、伝わりやすい表現とは何かを実践的に学ぶことができました。相手の背景や日本語能力の違いを意識しながら言葉を選ぶ難しさと、その工夫によって相手の表情が和らぐ瞬間の大切さを強く実感しました。

また、定期的な韓国語ラジオ収録では、言葉を通して文化や価値観を伝える責任を改めて感じました。限られた時間の中で分かりやすく情報を整理し、聞き手の立場に立って話す姿勢は、研究発表や日常のコミュニケーションにも通じる大切な学びでした。

最後に 2 年間の活動を通して、多文化共生は特別な取り組みではなく、日常の小さな配慮の積み重ねであることを学びました。今後は研究活動や将来の進学・就職の場面においても、この経験を生かし、異なる背景を持つ人々と橋渡しができる存在になりたいと考えています。



2026 年 2 月 5 日に行われた宮城野区中央市民センターでの活動

2年間の活動を振り返って

NG YAN YI(ウンヤンイー)

桜が咲き、長い冬がようやく終わりを迎える季節になりました。2年間にわたる交流委員としての活動も、まもなく終わりを迎えます。振り返ると、数え切れないほどの思い出ができました。

交流委員になろうとしたきっかけは、マレーシアの先輩から「留学生と交流できるアルバイトがあるよ」とすすめられたことでした。当時は学部1年生で、学校の知り合い以外に留学生をあまり知らなかったため、留学生と友達を作ることができたら楽しそうだと思い、深く考えずに応募してみました。すると、まさか採用され、活動がスタートしました。

1年目はあまり要領が分からないまま、“やさしい日本語講座”や“防災訓練”などを中心に参加してきました。2年目になると、主に日本語ラジオの収録に携わるようになりました。担当の吉永さんと鈴木さんとたくさん会話することができ、とても楽しかったです。また、青葉まつりのような大きなイベントにも、観客としてではなくスタッフとして参加する機会を得ることができ、とてもスペシャルな経験となりました。

活動を通じて最も学んできたのは、日本人と外国人をつなぐ「架け橋」としての役割の重要性です。実際、仙台市の市役所や市民センターの職員の方々に、外国人との接し方や文化的な背景について教えたり、相手が興味を持てるように外国文化を紹介する方法を工夫してきました。また、自分自身も相手の視点から多くのことを学ぶことができ、インバウンドやグローバル化についても、さまざまな角度から深く考えられるようになりました。

特に近年、日本国内で外国人に対する反感の世論が高まっているという現状は、深く考えさせられる問題です。なぜこのような感情が生まれるのか、またどうすれば解消できるのかについては、答えは簡単には出ません。ただし、単に不満を抱える日本人を一方向的に批判するのではなく、彼らの立場に立って問題を考え、留学生・外国人としての自分たちの存在意義を問い直すことが大切です。このように考えていく中で、自分自身の役割や立場も次第に明確になってきます。今後の相互理解や共存の道を切り拓くために、自分がどのような姿勢でこうした問題に向き合うべきかを考え続けることで、多文化交流の活動においてより積極的に貢献できるのではないかと考えています。

2年間の活動をまとめると、防災・子ども・地域交流など、様々なテーマに取り組んでいるSenTIAの活動の中で、私は特に「日本語」に関わる活動を中心に取り組んできました。その中で自身の日本語力も着実に向上し、日本人の考え方や文化についても多角的な視点で学ぶことができました。また、自分の小さな力が仙台市の国際化や多文化理解に少しでも貢献できていたのであれば幸いです。2年間を通じて、交流委員としての役割を果たしてきたと、自信を持って言えます。特に大きな変化がなければ、このまま日本で大学を卒業し、日本で就職する予

定です。今後の日本における外国人をめぐる状況は、現時点では不確定な要素も多いですが、SenTIA で学んできた「架け橋」の精神と役割を、今後も活かしていきたいと考えています。最後に、SenTIA の皆様をはじめ、今まで関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます！



図 1：2024 年 4 月委任式



図 2：2024 年ホアさん送別会



図 3：2025 年青葉祭り



図 4：2025 年食事会



図 5：2025 年ラジオ①



図 6：2025 年ラジオ②



図 7 : 2025 年ラジオ③



図 8 : 2024 年ラジオ（詳しい時期はあまり覚えていません）



図 9 : 2025 年 4 月委任式



図 10 : 2025 年度最終ミーティング

最終報告書(2年間)

Kravets Mariia (クラヴェツ マリヤ)

留学生交流委員の活動の二年目も終わりにになりました。一緒に頑張っていた交流委員と SenTIA の皆さん、お疲れ様です。

留学生交流委員になる前にも通訳、国際理解プログラム、やさしい日本語の講座、GLOBAL TALK のラジオ収録に参加しました。主な理由は、戦争が続いてるウクライナのことについて話すということでした。日本では、ウクライナはあまり知られていない国なので、戦争のレンズからの見方だけではなく、文化、言語、人のイメージやウクライナ人の日常生活を紹介するのを使命として考えていました。が、留学生交流委員になってから、知らず知らず友達もでき、今まであまり知らなかった国について知識を得ることもできました。ウクライナのように戦争の観点から見られるシリアと独裁の政治体制で悩んでいるイランの歴史、文化、食生活、自然などについてプレゼンテーションを聞いてよかったと思います。また、アフリカやインドネシアにおける文化や宗教の多様性に関してもあまり知らなかったのも、交流委員の興味深いプレゼンのおかげで学ぶことができて嬉しかったです。何回も金子 みすゞによる「みんなちがって、みんないい」という言葉を思い出しました。

ウクライナのことについてプレゼンテーションを準備しておいたときに、自分の国のあまり知らなかったことを発見もできたと分かりました。違う国について学びながらも、母国のこともより深く理解できたかなとも思いました。

英語と優しい日本語のラジオ収録も印象を与えた活動の一つでした。誰かが聞くかどうか分からないと思いますが、日本と仙台での生活を内省しながらいろいろなテーマについて司会者と話しました。もし、私がシェアしたことは誰かに役に立ったら嬉しいと思います。留学生交流委員として二回目に GLOBAL TALK というラジオ番組に参加してウクライナの今年の冬の厳しさや戦争の際のサバイバルについて情報も聞き手に伝えられて良かったです。

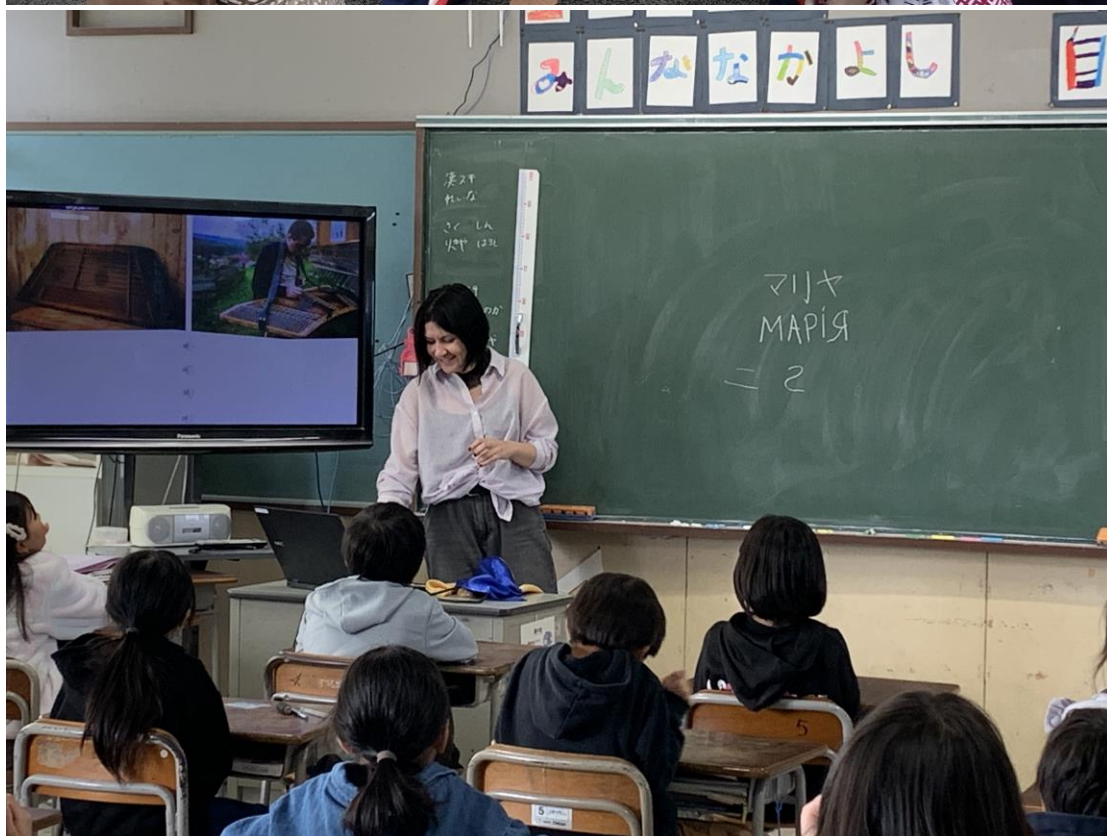
二年目に参加できた青葉祭りも良かったです。一年目には、交流委員の中に知り合いの人はほとんどいなかったのも、緊張しました。その理由のせいか音楽や市民と一緒に活動が楽しむことができませんでした。が、二年目はやはり良かったです。

2025年12月6日にインドネシア出身のディタさんと、ベトナム出身のニーさんと SenTIA の皆さんと一緒に市民センターフォーラム、体験コーナーを担当しました。いつも紹介したことと異なったウクライナの文化について（モタンカという藁人形の作り方）勉強しておき、無事にワークショップを行って良かったです。今後もう一回行ってみたいと思います。

結論としては、留学生交流委員の活動のおかげで他の国について学ぶことにつれて、母国についてもいろいろ勉強になりました。

二年間はありがとうございました。





仙台で広がるつながりと地域共生

名前(ゴッドフレイ モンテロ リチャード エドゥアルド)

2024 年度から、私はせんだい留学生交流委員として活動してきました。好きなことをしていると時間が早く過ぎると言いますが、SenTIA（仙台観光国際協会）とともに活動してきたこの時間は、まさにそのように感じられるものでした。この経験を通して、仙台の多様なコミュニティとつながり、人として成長することができたと感じています。また、活動に参加する中で、自分がこの街の一員であると感じる機会も多くありました。

近年、日本政府の外国人受け入れ政策について、メディアや SNS など多くの議論が行われています。日本では人口の高齢化が進み、労働力不足が社会的な課題となっています。そのため、外国人の受け入れを進め、投資や労働力の確保につなげようとする動きがあります。しかし一方で、日本の文化や伝統をどのように守っていくべきかについても議論が続いています。このような背景の中で、SenTIA は外国人と地域社会をつなぐため、さまざまな取り組みを行っています。ここでは、私がこの 2 年間の活動を通して感じたことを紹介したいと思います。

まず、日本人と外国人のコミュニケーションにおける大きな課題の一つが言語です。この問題を少しでも減らすため、SenTIA ではやさしい日本語や通訳を活用した無料のワークショップを開催し、日本語学習や生活情報の共有を行っています。これらの活動を通して、言語の小さな学びでも、人と人の距離を近づけることができると感じました。多くの場合、人と人との間に距離を生むのは、知らないことへの不安ではないかと思います。

また、文化への理解も大切な要素です。多くの外国人は、日本文化についてある程度のイメージを持って日本に来ます。そのため、実際に文化活動に参加できる機会を作るとはとても重要だと感じています。SenTIA のメンバーとともに青葉祭りなどのイベントに参加した経験は、私にとって特に印象的なものでした。これらのイベントを通して、多くの人と交流し、祭りの歴史や意味について理解を深めることができました。

一方で、交流の促進は外国人だけの努力に頼るものではなく、日本社会側の取り組みも重要です。その点で、SenTIA が行っているラジオ番組や学校での国際理解活動はとても意義のあるものだと思います。これらの活動では、委員が自国について紹介し、文化を共有する機会があります。このような交流は、仙台における相互理解を深め、より強い地域社会づくりにもつながっていると感じています。

さまざまな活動の中でも、私が特に関心を持ったのは防災に関する取り組みです。これは SenTIA の大きな強みの一つだと思います。この 2 年間、外国人向けの防災ワークショップや避難訓練、地域の会議などに参加してきました。まだ改善すべき点は多いと思いますが、これらの活動を継続していくことが、将来より強い地域社会の実現につながると感じています。

最後に、せんだい留学生交流委員として活動する機会をいただいたことに、心より感謝申し上げます。また、私をこの街の一員として感じさせてくださったことにも深く感謝しています。



- ① 最終交流委員ミーティング
- ② 青葉祭り
- ③ 仙台防災枠組講座（総合編）
- ④ ラジオ （やさしい日本語）

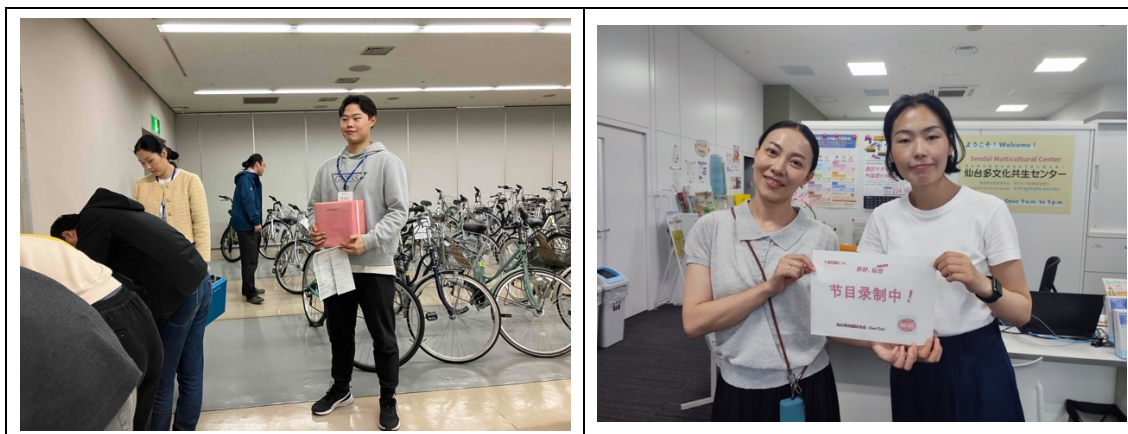
- ⑤ 防災リーダーミーティング
- ⑥ にほんごカフェ （消費生活）
- ⑦ 南材地区防災訓練

せんだい留学生交流委員（2年目）の蘇奴卓瑪（スヌズマ）です。私は SenTIA と初めて出会ったのは、3年前のリサイクル自転車販売の時でした。当時、大学院への進学を機に神戸から仙台へ移住してきたばかりでした。4月の仙台は、まだ寒いという印象が強かったです。見知らぬ地域での生活に、緊張と不安がありながら、新しい生活への期待もありました。

その時、リサイクル自転車販売という支援活動を通して SenTIA の存在を知り、日本にきたばかりの留学生のために有意義な活動をしてくださっていることに、深い感謝を抱きました。そして、「自分もこの活動の一員になりたい」という単純な思いを持つようになりました。その1年後、大学の留学生課からのメールで「せんだい留学生交流委員」の募集を知り、ご縁を感じてすぐに応募しました。

委員としての1年目、私は再びリサイクル自転車販売活動に参加しました。しかし今回は、自転車を買う側ではなく、スタッフとしての参加でした。来場された留学生が嬉しそうに自転車に乗って帰る笑顔を見た時、やりがいを感じるとともに、一年前の自分の願いを叶えることができた喜びもありました。その後も、中国語のラジオ収録や防災活動など、さまざまな活動に参加する機会がありました。周囲の交流委員の仲間や地域の方々との対話を通して、普段の研究室や大学生活だけでは気づくことのできなかった、日本の文化や社会に対する新しい視点を得ることができました。留学生交流委員として活動した1年目は、私にとって、研究という枠から少し外の世界へと目を向け、現実世界とのつながりを実感する貴重な期間でした。

続く2年目は、研究の忙しさもあり、以前ほど多くの活動に参加することが難しくなりました。しかし、定例ミーティングへの参加や、時折ラジオ収録などの活動に関わることで、仲間たちがさまざまな活動に取り組んでいる様子を、活動で撮った写真から感じながら、委員としてのつながりを持ち続けることができました。委員としての任期は終わりますが、これからも時間の許す限り SenTIA の活動に参加していきたいと思っています。研究以外に、小さな形であっても、少しでも誰かの力になれば嬉しいです。最後に、これまで支えてくださった SenTIA の皆様、そして一緒に活動してきた留学生委員の皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



留学生交流委員の2年間を振り返って 孫冬梅(ソントウバイ)

留学生交流委員として活動した2年間は、仙台で暮らす外国人市民としての自分の視野を大きく広げてくれた、かけがえのない時間でした。中間報告書では「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス宮城 2025」について報告しましたが、最終報告書では、その後に参加した活動を中心に振り返りたいと思います。

特に印象に残っているのは、SenTIA の中国語と日本語ラジオの収録に参加したことです。この収録をきっかけに、2011 年の東日本大震災について改めて振り返る機会を得ました。仙台に住みながらも、震災について深く考える機会はこれまで多くはありませんでしたが、収録を通じて当時の経験や教訓について語り合い、防災意識を新たにすることができました。また、防災訓練の話もでき、地震や災害への備えについて実践的に学ぶことができ、日本で生活する上での安全意識が大きく高まりました。外国人住民にとっても防災知識がいかに重要であるかを再認識する貴重な経験となりました。

2年間の活動を通して、仙台で暮らすことについて幅広く学ぶことができました。進路ガイダンスでは日本の教育制度を学び、ラジオ収録では地域の歴史と向き合い、防災訓練では安全への知識を深めました。

さらに、第10回ミーティングには息子の佳易を連れて参加しました。その際、スヌさんが佳易の面倒を温かく見てくださり、その様子を収めた写真にとっても感動しました。交流委員の活動は国際交流にとどまらず、家族ぐるみの温かいつながりを生んでくれるものだ実感しました。

今後は、この2年間の交流委員としての経験を糧に、仙台在住の外国人市民として地域社会に積極的に関わっていきたいと考えています。多文化共生社会の実現に向けて、自らの経験を活かし、外国人住民と地域をつなぐ架け橋として貢献していくことが、私のこれからの目標です。



留学生交流委員としての2年間を振り返ると、大学での勉強と両立しながらできる範囲で参加してきました。今年は歯科医師国家試験の準備などで忙しく、昨年のように多くの活動に参加することはできませんでしたが、その中でも韓国語ラジオ放送や日本語カフェの活動に参加しました。限られた機会ではありましたが、その一つ一つの経験がとても印象に残っています。

月に一度行われる韓国語ラジオ放送では、その時期に合ったテーマについて韓国語で話しながら、日本で生活する外国人に向けて情報を発信しました。放送自体は15分ほど短い時間でしたが、去年と似たようなテーマだったので同じ内容を繰り返さないようにしました。収録後にはメンバー同士で交流する時間があり、留学生交流委員とより親しくなることができました。また、毎月のミーティングの中ではそれぞれの出身国の文化や価値観に触れることができたのも大きな学びだったと思いました。

また、日本語カフェでは119番の使い方をテーマに活動に参加しました。当日は韓国人参加者が来れなかったため、主に英語で説明をサポートし、実際に通報する場面を想定したロールプレイにも参加しました。参加者の前で実演するのは少し緊張しましたが、緊急時に必要な簡単な日本語単語や表現、対応を実践的に学ぶ機会となりました。また、火事が発生した場合にも119番に通報することをこの活動を通して初めて知りました。緊急時には英語が必ずしも通じるとは限らないため、最低限必要な情報を日本語で伝えられるようにすることの大切さについて、参加した外国人の方々と意見を交換しながら、どのように練習すれば良いかを一緒に考えることもできました。外国人にとって緊急時の対応は特に不安が大きいものだと思うので、少しでも理解の助けになれば嬉しいと思いました。

2年間の活動を通して、多文化共生の大切さや地域で外国人を支える取り組みについて多くのことを学ぶことができました。留学生として生活する中で、自分自身も支えられていることを実感する場面が多くありました。これまで支えてくださったセンティアの皆様、そして交流委員の皆様、に心から感謝しています。2年間本当にありがとうございました。



交流委員として広げた世界と絆

チェボギョム

交流委員としての2年間は、私にとって単なる活動以上の、非常に意味深い時間でした。活動を始めた当初は大学という狭いコミュニティの中にいましたが、この活動を通じて仙台という地域社会、そして世界と深くつながることができました。2年間の活動を終えるにあたり、これまでの貴重な経験を振り返り、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最も心に残っているのは、定例ミーティングのたびに行われた各国の文化紹介の時間です。中東、アフリカ、南米など、普段はあまり接することのない地域の話と同僚の委員から直接聞いたことは、何よりの楽しみでした。写真を通じてその国の自然や文化を学ぶことで、世界に対する視野を大きく広げることができ、多文化共生の真の価値を体感するきっかけとなりました。また、ミーティングの休憩時間や終了後に他の委員と交わした会話も、留学生同士で情報を共有し、共感を深められる大切な交流の場でした。

特に2年間で最も情熱を注いだ活動は「韓国語ラジオ」の活動です。単に情報を発信するだけでなく、実際に私たちのラジオを聴いてくださっているリスナーの方と直接お会いする機会もありました。自分の言葉を通じて多くの方が韓国に興味を持ち、楽しい時間を過ごしてくださったことを知り、大きなやりがいと責任感を感じることができました。

私は今月、住み慣れた仙台を離れ、4月から東京で社会人としての第一歩を踏み出します。しかし、この活動で学んだ他者への配慮や多様性を尊重する姿勢は、これからの新しい生活においても大きな財産になると確信しています。仙台を思い出すたびに、交流委員として過ごした温かい時間を真っ先に思い出すはずです。2年間、私を成長させてくださったセンティアの皆様、そして関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。



私の宝物

二年間を振り返ると、本当に多くの経験をしてきたのだと感じます。どれも楽しい思い出であり、新しい知識や学びを得るとともに、新しいつながりにも恵まれました。そのような時間を過ごしてきた自分の歩みを、今とても誇りに思っています。

不安障害を抱えていた自分が、このように多くの経験をさせていただけたことに、心から感謝しています。

一年目は、「自分の問題は自分で乗り越えなければならない」と思いながら、少しずつ自信を持ち、一步ずつセンティアのプロジェクトに挑戦しました。実際に参加してみると、自分の視点や世界が少しずつ広がっていきました。それまで「自分は何の役にも立たないのではないか」と感じることもありました。しかし、誰かのために行動することで、自分でも誰かの役に立てるのだと気づくことができました。その気づきが、さらにプロジェクトに参加する勇気につながったのだと思います。

二年目は、これまで経験したことのないプロジェクトにも、これまで参加してきたプロジェクトにも挑戦しました。その一つ一つが新しい思い出となり、また新しい知識や学びにもつながり、とても充実した時間になりました。

また、センティアの交流委員になることができたことも、私にとって大きな光栄でした。そこで多くの素晴らしい方々と出会うことができました。道を歩いていると、声をかけて挨拶してくださる方がいます。以前は孤独を感じることもあった私にとって、「自分の存在に気づいてくれる人がいる」ということは、とても心に残る出来事でした。

将来どうなるのかはまだ分かりません。今は自分の研究論文に集中しながら、進学するのか、それとも社会人になるのかについて考えているところです。まだはっきりとした未来の姿は見えていません。それでも、ここまで積み重ねてきた経験や思い出は、きっとこれからの人生の中で大きな力になると信じています。

最後に、新しく交流委員になる皆さんへ伝えたいことがあります。センティアで過ごす時間を大切にしながら、たくさんの楽しい経験をして、そして多くの人とのつながりを築いていってください。その時間は、きっと皆さんの人生にとって大切な宝物になると思います。

バイバイ私の2年交流委員の期間

ブイレニー

私は12月6日に宮城野区文化センターで開催された「令和7年度市民センターフォーラム～世界とつながるまちの居場所～」に参加した。この一年の活動の中で特に印象深いこのイベントだった。

当日、私はベトナムの伝統衣装の試着体験と、手作りの「カラー帽 (ca lô)」制作ワークショップを担当した。今回、私が特に重視したのは衣装の多様性である。一般的に知られる現代のアオザイに加え、王朝時代の正装である「日平衣 (Nhật Bình)」や、その原点である「五身衣 (Ngũ Thân)」、そして現代的なアレンジを加えた「改良アオザイ」を用意した。実際に体験が始まると、学生から高齢者、さらには外国人の方まで、非常に幅広い層の方々が足を止めてくれた。多種多様なベトナムの古風な衣装を身にまとった参加者の皆さんが、鏡の前で晴れやかな笑顔を見せてくれた姿は非常に印象的であり、自国の文化が国境を越えて人々を輝かせる様子に深い誇りを感じた。

また、今回の活動で最も驚き、かつ興味深かったのは、隣のインドネシアブースを担当していたディタ (Dita) さんとの交流である。ディタさんが紹介していたインドネシアの伝統的なボードゲームは、ベトナムの子供たちが遊ぶ「オアंकアン (ô ăn quan)」と、ルールや石の動かし方が驚くほど似ていた。遠く離れた国同士であっても、遊びという文化の根底で繋がっていることを発見し、強い親近感を抱いた。この偶然の発見を来場者の方々に説明すると、皆さん一様に驚き、アジアの文化の多様性と繋がりを実感している様子であった。

今年で私の留学生交流委員としての2年間の任期は最後となる。振り返ってみると、この2年間は私にとって非常に意味深く、かけがえのない時間であった。ここで出会った素晴らしい仲間たちとの絆は、何物にも代えがたい宝物である。また、活動を通して自分自身の大きな成長を実感している。以前の私はかなりシャイで、大勢の前で自分の意見を述べることに苦手意識を持っていた。しかし、交流委員としての定例ミーティングや様々なイベントでの経験を積み重ねるうちに、次第に自分の考えをしっかりと伝えられるようになった。

留学生交流委員の一員として活動できたことを、心から光榮に思う。私を成長させてくれたこの組織と、共に歩んだ仲間たち、そして貴重な機会を与えてくださった全ての方々に深く感謝したい。ここで得た経験と自信を糧に、これからも自分らしく歩み続けていきたい。





最終報告書

BUI THUY LINH (ブイ・トウイ・リン)

せんだい留学生交流委員として活躍した1年間、仙台における多文化共生社会の構築に目指す様々な活動に参加することができました。例えば、仙台青葉まつりで山鉦を引いたり、日本語学校の生活オリエンテーションで通訳をしたり、中学生と保護者向けの進路ガイダンスでサポートしたり、やさしい日本語講座で自分の経験を共有したりしました。これらの活動を通して、現地のコミュニティとのつながりが深まり、所属感を得ると同時に、自分の知識を活かして他の人の役に立ち、社会に還元できたことをうれしく思いました。

また、私は天災があまり起こらない地域で育ったため、防災対策などに関する知識や経験がほとんどありませんでした。しかし、留学生交流委員としてさまざまな防災活動に参加する機会を得たことで、知識の幅が広がり、防災意識が高まりました。

これから留学生交流委員としての2年目は、これまで積み重ねてきた経験を生かし、より一層活躍できるよう頑張りたいと思います。まず、私の専攻は日本語教育なので、それを活用し日本語に不安を抱える外国人を支援していきたいです。具体的には、日本語教室や進路ガイダンスで学習者の悩みに耳を傾けた上で、自分の経験を共有し、適切なアドバイスをしたいと思います。

次に、防災訓練にはこれまで以上に参加するようにします。実は私の周りの人は防災の大切さを理解しているものの、非常袋の準備など、実際の行動レベルで備えている人はまだ少ないです。そのため、防災活動に参加して自分の知識やスキルを高めた上で、周りの人にも共有していきたいと考えています。

さらに、青葉まつりややさしい日本語講座などにも参加し、自分と地域コミュニティとのつながりをより深めると同時に、私自身の参加を通して、外国人に対する前向きなイメージを周囲の日本人の方々に持ってもらえるよう取り組みたいです。

このように、この1年で様々な貴重な経験をすることができました。2年目はそれらを活かして、さらに積極的に取り組んでいきたいと思っています。



仙台にいる間、素晴らしい経験

シティ・マグフィラ

2025 年 4 月から 2026 年 3 月まで、SenTIA の留学生交流委員として活動する中で、本当に多くの新しい経験をさせていただきました。SenTIA は、仙台に住む外国人の生活を支え、つなぐ役割を果たしている素晴らしい団体だと感じています。

毎月のミーティングでは、岡崎さんや吉永さんが活動の内容をととても丁寧に整理し、細かいところまで準備されていることにいつも感心していました。

また、「やさしい日本語」の活動のように、日本人と外国人が一緒に参加するイベントや、小学校入学に関する保護者向けセミナーの通訳、インドネシア人の保護者の方々への学校での通訳など、さまざまな活動にも関わらせていただきました。こうした経験を通して、子どもが日常生活をきちんと送れるように準備することの大切さや、日本の教育の考え方について多くを学ぶことができました。子どもが将来に向けて規則正しく、きちんと成長できるように準備していく日本のやり方には、とても感銘を受けました。いつも新しいことを学ばせてくださった鈴木さんにも、心から感謝しています。

また、学校訪問（がっこうほうもん）の活動もとても印象的でした。日本以外の世界に興味を持ち、たくさん質問をしてくれる子どもたちに出会えたことは、とても楽しい経験でした。このような機会をくださった Rei さんにも感謝しています。

4 月からは留学生交流委員の 2 年目を続けることはできませんが、もし機会があれば、防災、やさしい日本語、学校訪問、日本の教育に関するセミナーなど、これからも多くのことを学び続けたいと思っています。

特に防災については、東北大学 IRiDeS での訓練や知識の学びだけでなく、震災遺構から直接学ぶことも大切だと思っています。例えば、荒浜小学校や閑上などにも一緒に行って学べたら嬉しいです。楽しみにしています。

1 年間という短い期間でしたが、SenTIA で素晴らしい皆さんと出会えたことをとても嬉しく思っています。

またお会いしましょう。

最終報告書

ジョ シンヨウ

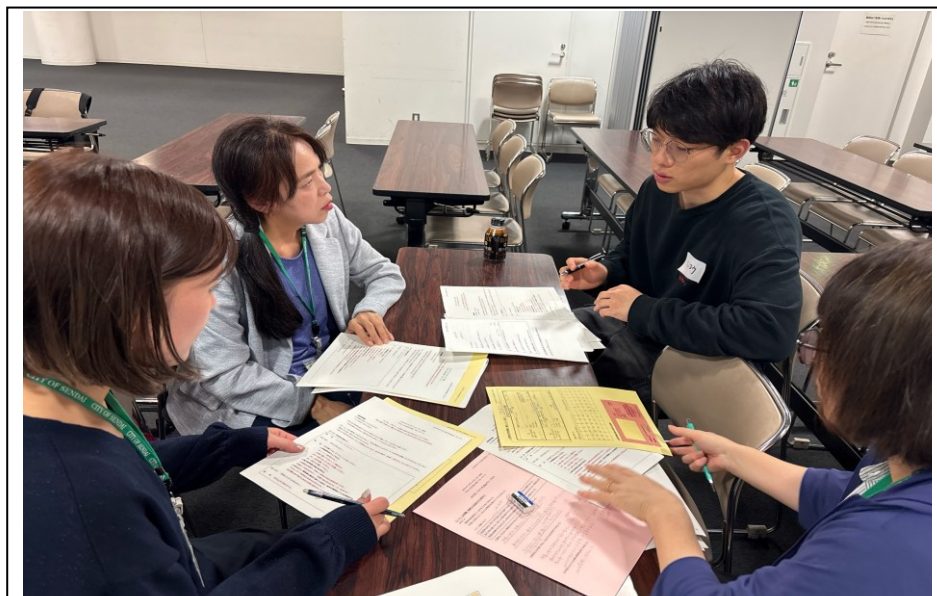
留学生交流委員として、2025 年 4 月からの 1 年間の活動を振り返り、報告いたします。この 1 年間、様々な活動を通じて、外国人住民としての視点と、支援する側の視点の両方を学ぶことができました。

前期の活動では、8 月に参加した「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス」が強く印象に残っています。中国人の親子に通訳や進学のアドバイスを行った経験から、日本の複雑な制度を外国人に分かりやすく伝えることの難しさと、言葉の壁を越えて相手に寄り添うコミュニケーションの重要性を痛感しました。

この前期での気づきを踏まえ、後期の活動の中で最も有意義だったと感じたのが、10 月 4 日に開催された「多文化共生講座」です。この講座では、仙台区役所の職員の方々を対象に、私が外国人住民の役を演じるロールプレイングを行いました。職員の方々には、各種行政手続きについて「やさしい日本語」を使って案内や説明をしていただき、私は外国人の立場から「その日本語が十分に分かりやすかったか」「情報が正しく伝わったか」を評価する役割を担いました。

普段、私たち外国人が区役所を利用する際、敬語や専門用語や複雑な手続きなどに戸惑うことが多く、分からないまま領いてしまうことも少なくありません。しかし、今回評価者として参加したことで、職員の皆様が難しい行政用語をいかに簡単な言葉に言い換えるか、どう工夫しているかを間近で見ることができました。同時に、単に言葉を易しくするだけでなく、相手の理解度を確認しながら話を進める「歩み寄り」の姿勢こそが大切だと気づきました。前期のガイダンスで感じた「伝える難しさ」に対する一つの答えが、この「やさしい日本語」を通じた双方向の対話にあると確信しました。

今年の 4 月からは学校を卒業し、新卒の社会人として新たな一步を踏み出します。留学生交流委員としての活動は終了となりますが、この 1 年間で学んだ「やさしい日本語」の視点や、異文化に寄り添う姿勢は、社会に出てからも必ず活けると信じています。今後は、機会があれば自分が住んでいる地域のボランティア活動などにも応募し、一人の住民として地域社会に貢献していきたいと考えております。1 年間、大変貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



一年間活動について



この一年は瞬く間に過ぎ去った。望み通り、友人を作り、多くの思い出を刻み、異国の文化に触れ、日本人向けと外国人向けの両方に向けた仙台のイベントに参加した。多くの留学生と比べ、短期間で日本文化についてかなりの知識を得ることができた。。。。。

以下は私の最も記憶に残る出来事の一部です：



2025 からもよろしくお願いします。日本のおかげで、様々な国の人々と友達になれました。国際交流委員会の活動を通じて、より深い絆が生まれました。あまり知られていない国の伝統や魅力も理解できるようになりました。最近の世界的な紛争が国々の悪いイメージを描いているとはいえ、一般の

人々がそのような否定的な思想を支持していないことは明らかです。そして、平和の価値をまだ見出している人々がいることを知り、嬉しく思います。忘れないうちに、先輩方へ心からの感謝を伝えたいと思います。SENTIA に入った当初はどんな環境か不安でしたが、とても活気ある環境だったのですぐに馴染めました。今年度は新入部員にとって良い先輩でありたいと思います。



交流活動は大人のためだけのものではありません。子供向けのイベントもあります。私は外国人の子供たちが通う幼稚園の保護者向けイベントで、彼らと遊びました。絵を描くなどの活動を通じて、世界中の子供たちの体験がどれほど似ているかに驚かされました。言葉が通じなくても、子供たちは互いに交流するのに何の問題もありません

でした。一緒にアートを創り上げたこのイベントが楽しかったのです。小さなテーブルの上にミニチュアの世界を構築しました。それは私の子供時代の記憶を呼び起こしました。さらに、様々な紙の芸術作品を作り、子供たちの何人かはそれを記念品として持ち帰りました。。

藤崎防災ワークショップ



様々な地震対策が議論された。本ワークショップに先立つ防災訓練の映像が上映され、参加者の意見が防災体制の改善に役立った。15年前の大地震の影響が今なお日本人の心に刻まれていることが明らかになった。この訓練で学んだ対策は生活の他の面にも応用されている。例えば、防災のための公共建築物の設計には

どのような変更が必要か？



英語による多言語放送に参加して以来、世界の他の地域についてほとんど知られていないことに気づきました。私たちの対話を通じて、様々な社会がそれぞれの問題解決のために適応する多様な方法があることを学びました。また、ラジオで共有された参加者の体験が、特に日本のリスナーの心に響くならば、特定の国について調べたくなるきっかけとなり、世界のそうした地域についてより詳しく知るようになるかもしれない。これは放送の主な目的の一つだと考えています。



最後に、

SENTIA のおかげで、東北文化の魅力は日本国内だけでなく世界中に知られるようになりました。写真を投稿するたびに仙台について尋ねられるので、私が参加できなかったイベントも世界に向けて紹介し続けたいと思います。

SenTIA 留学生交流委員としての活動を通して学んだこと

氏名：モナ

私は SenTIA の留学生交流委員として活動する中で、多くの貴重な経験をし、日本で生活する外国人を支援することの重要性について深く学びました。特に印象に残っているのは、英語ラジオ番組への参加と、外国人の保護者のための通訳活動です。これらの活動は、私にとって大きな学びと気づきを与えてくれました。

英語ラジオ番組では、新生活の準備や防災対策、新年の目標などについて紹介しました。この活動を通して、これらのテーマについて自分自身も深く考える機会となりました。例えば、新しい季節や新生活の始まりに、自分はどのような目標を持ち、どのように成長していきたいのかについて考えるようになりました。また、防災について学ぶ中で、日本だけでなく、他の国々ではどのような備えや対策が行われているのかにも関心を持つようになりました。そして、日本で学んだ防災の知識や意識は、将来、自分の国や他の外国人を支援する際にも生かすことができる大切な経験であると感じました。この活動は、外国人のための情報提供だけでなく、自分自身の考え方や価値観にも良い影響を与えてくれました。

通訳活動では、お弁当作りやバイリンガルの子どもの育て方、救急車の呼び方についてのプログラムに参加しました。特に、お弁当作りのプログラムはとても印象に残っています。私はその時、初めて自分でお弁当を作りましたが、とても楽しく、うれしい経験でした。お弁当は、家族や大切な人のために心を込めて作ることができる特別なものだと感じました。この経験を通して、日本の食文化や栄養バランスについて学ぶことができました。

また、バイリンガルの子どもの育て方や救急車の呼び方についての通訳活動を通して、外国人が他の国で安心して生活するためには、正しい知識と適切な支援が非常に重要であると強く感じました。特に、仙台では外国人の保護者を支援するための活動が充実しており、地域社会の支えの大切さを実感しました。この経験を通して、私自身も将来、学校や職場、日常生活の中で出会う外国人に対して、少しでも支えとなれる存在になりたいと強く思うようになりました。

これらの活動を通して、外国人と地域社会をつなぐことの重要性と、人を支えることの価値を深く学びました。SenTIA での経験は、私にとって大きな成長の機会となり、今後の人生においても大切にしていきたい経験です。これからも、この経験を生かし、多文化理解を深めながら、外国人支援や地域社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。



2025 年度交流委員活動報告書（最終）

李 瀾昊（リ ランゴウ）

留学生交流委員として去年9月から2月にかけて、防災交流、訓練イベント、やさしい日本語講座や中国語ラジオにも関わり、地域の方々と留学生が出会い、互いの状況を知る機会を増やすことの大切さを改めて実感しました。中でも特に印象に残っているのは、9月27日の八本松児童館、10月18日の仙台市立八軒中学校、そして1月9日のサバメシレシピ撮影の三つです。

八本松児童館では、子どもたちと一緒に地震や避難をテーマにした体験型の活動に参加しました。大人同士の訓練と違い、遊びの要素が多い一方で、子どもが直感的に理解できる言葉や動きに落とし込む工夫が随所にあり、学び方そのものが防災につながると感じました。実際にゲームやクイズを通して、私自身も知らない点に気づかされました。また、障がいのある方とも同じ場で交流し、助ける側と助けられる側を固定せず、状況に応じて声をかけ合う関係が大切だと体感しました。

仙台市立八軒中学校のイベントでは、市民✕学校✕防災が一体となって学ぶ形式が良かったと思います。学校は生徒の場所という印象が強かったのですが、地域の拠点として機能し得ることを具体的に理解できました。こうした仕組みは、災害時の連携を平時から作る点で非常に有効だと思い、将来的には中国にも共有したいと考えました。

サバメシレシピ 2026 では、私が普段作っている料理を形にして発信できたことが嬉しく、非常時でも再現しやすい工夫を意識することで、料理が支援の一部になり得ると感じました。

今後はラジオ活動をより発展させたいです。毎回楽しく話せている一方で、扱う話題を社会の動きや流行なども含めて広げ、聞き手が参加しやすいテーマ設定にしたいと思います。また、出演の形も二人だけに限らず、複数人での座談会形式や、一人が個人的視点で深く語る回など、回ごとに変化をつけたいです。

そして二年目として、これまでの経験を新しい委員に伝え、活動が継続的に良くなるよう支えたいと考えています。一年間の経験を通じて、組織が留学生と地域の交流を増やそうと真剣に努力していることを身近に感じ、私自身もその一員として参加できたことを誇りに思いました。



サバメシレシピ 2026 のレイアウト



八本松児童館イベント

最終報告書

ワン ダン
王 丹

本年度の交流委員としての活動を通じて、多くの方々との出会いや学びを得ることができ、大変貴重な経験となりました。前期に参加した青葉まつりや、「やさしい日本語」「英語」「中国語」によるラジオ収録、定例ミーティングでの経験に加え、後期には外国出身審査員としての活動や防災に関する取り組みなど、さらに多様な活動に関わる機会をいただき、自分自身の視野が広がるとともに、人と人とのつながりの大切さを改めて感じるようになりました。

後期の活動の中で特に印象に残っているのは、「第12回新東北みやげコンテスト」に外国出身審査員として参加させていただいたことです。地域の魅力が詰まったお土産に触れる中で、一つ一つの商品には作り手の夢や想いが込められており、心を込めて作られていることを感じました。その温かさが伝わってきました。また、外国人としての視点から意見を求めていただいたことはとても嬉しく、自分の感じたことを丁寧に伝えることの大切さを改めて実感いたしました。

また、日本語教室の「にほんごカフェ」においては、「消費生活」をテーマとした講座で通訳を担当いたしました。消費生活センターの職員の方のお話を外国人住民の方々にお伝えする中で、日常生活に関わる知識を分かりやすく伝えることも多文化共生社会を支える大切な一つの取り組みであると実感いたしました。

さらに、「せんだい外国人防災リーダーミーティング」に参加し、これまでの活動の振り返りや、防災リュックの中身の確認、防災食の試食などを通して、防災について具体的に考える機会を得ました。実際に体験しながら学ぶことで、災害への備えの大切さをより身近に感じることができ、特に外国人住民にとって、防災情報の重要性や備えの意識を高めることが大切だと感じました。

SenTIA 国際交流委員として活動したこの1年間、SenTIA の皆様とご縁をいただき、また仙台についてより深く理解し、より親しみを感じるようになりました。今年も引き続き青葉まつりや防災訓練など SenTIA の活動に参加し、仙台を応援し続けたいと思います。今後もこの経験を活かしながら、微力ではありますが、多文化共生社会の実現に向けて関わり続けていきたいと考えております。

